

受講生募集概要

募集人数

120名

※応募者多数の場合は書類審査を実施する

受講料

350,000円

検定料:なし

応募期間

2025年
1月6日(月)～
2月14日(金)

履修期間

1年間

2025年4月1日～
2026年3月31日

応募方法

WEB応募

郵便受付も可
※持ち込み不可

募集対象

以下のいずれかの条件を満たす者

高等学校卒業以上の
学歴を有する者

前項と同等以上の学力があると
大学が認めた者

※メールの送受信が可能で、
オンラインの受講環境が整っていること
※外国人志願者は、授業履修に支障のない
日本語能力が必要である

応募までの流れ

STEP
1

募集要項の
取り寄せ

募集要項・書類を
DOORプロジェクト
WEBサイトから
ダウンロード



※ WEBサイトでダウンロードできない
方は、下記の方法(電話・メール)で
お取り寄せください。

資料請求先

東京藝術大学
社会連携課 社会連携係
TEL 050-5525-2031
MAIL ext-soumu@ml.geidai.ac.jp

STEP
2

提出書類の
作成

課題および
必要書類を揃える

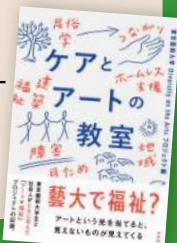
課題(小論文)

「あなたが実現したい
ダイバーシティ」
について自由に論じなさい。

A4サイズ1枚にまとめ、必ず氏名を
記入してください。

※ 提出書類の詳細は募集
要項をご確認ください。

※ DOORが考えるダイバー
シティについては、書籍
『ケアとアートの教室』
をご参考ください。



STEP
3

応募・
書類提出

DOORプロジェクトWEBサイト募集ページ内
「WEB応募ページ」より
サインインして応募・
書類提出 (PDF形式)

受付期間

2025年
1月6日(月)～2月14日(金)

※ 郵送の場合は消印がこの期間内のもの。

提出書類一式を封筒に入れ
書留郵便にて送付(持ち込み不可)

送付先: 東京藝術大学 社会連携課 社会連携係

受講までの流れ

2025年
3月末

受講の可否及び受講手続きの
詳細について大学からメールで通知します
※応募者多数の場合は書類審査を実施

2025年
4月上旬

受講料の振り込み
オンラインでガイダンスを開催
4月12日(土) * 後日視聴可能

※ DOORプロジェクトWEBサイトに掲載している募集要項・応募方法の詳細を必ずご確認の上、ご応募ください。



オンライン
説明会動画

DOORでの受講をイメージできるように、
各授業の詳細や1年の流れを映像で説明します。
また、受講しての感想や体験談を現役受講生に
よるトークセッションを通して紹介します。

申し込み不要・無料

WEBサイト 2024年 12月20日(金)～
にて公開 2025年 2月14日(金)まで

オンライン
公開講座

次年度の受講を検討している方を対象に、DOORで
の学びの雰囲気などが体験できるオンライン公開講座
を開催します。ぜひご参加ください。

2025年
1月20日(月)

定員

300名

概要紹介 18:00～18:20
特別講義 18:20～19:50

先着順 ※要事前申込

参加費
無料

詳細・お申込・お問い合わせは、DOOR プロジェクト
WEB サイトをご覧ください。http://door.geidai.ac.jp/info/



芸術未来研究場
「瀬戸内海分校プロジェクト」
—地方／地域型共創モデルの開発—

東京藝術大学 芸術未来研究場では「日本の未来の縮図」とも
呼ばれる瀬戸内海において、海と島の課題をアートと科学の
融合によって解決するとともに地域の社会・産業を支える人材
を育成するプロジェクトを香川大学と連携しながら2024年から
本格的にスタートしました。

環境・文化等の特色を活かした課題解決・産業振興・人材育成
の複合実装メソッドを確立し、国内外に普及・展開を目指しま
す。右の4つの大きな取り組みの紹介を交えながらディスカッ
ションしたいと思います。

※公開する講義は必修科目「ダイバーシティ実践論」となります。



講師

橋本和幸

東京藝術大学 美術学部 デザイン科 教授
芸術未来研究場 瀬戸内海分校 プロジェクトリーダー

聞き手

日比野克彦

東京藝術大学長

アーティストと海洋研究者による協働
海洋環境の課題に関わる研究・イノベーション
空き家を活用した医療、福祉の拠点形成
離島環境の課題に関わる研究・イノベーション
地域の中学・高校生への教育プログラム「瀬戸内海分校プロジェクト」の実施
地域の課題解決・産業振興を支える人材の育成
自治体・産業界等との持続的な共創関係の形成

Q & A

Q. 履修証明制度とはなんですか？

A. 文部科学省による「履修証明制度」とは、大学がより積極的な社会
貢献を促進するため、社会人を対象とした学習プログラム(履修証
明プログラム)を開設し、その修了者に対して法に基づく履修証明
書(Certificate)を交付できる制度です。年間60時間以上の受講
で東京藝術大学から「履修証明書」が発行されます。

Q. 授業が行われる場所はどこですか？

A. 講義はオンラインで行い、対面での演習は東京藝術大学、学外の施
設などで実施します。

Q. 福祉、アートに関連する経験や実績、技術等がなくても受講できますか？

A. 経験がなくても受講可能です。

Q. 講義を受けるにあたってパソコンなどの準備は必要ですか？

A. 講義はオンラインでも行いますので、パソコンを使用してください。演習も一
部オンラインを使う場合があります。オンラインの講義は、Zoom (Web会
議用アプリ)で行います。講義連絡は主にメールやeアーカイブリングの
掲示板機能を使用します。通信機器の設定や通信環境のサポートなどはあ
りません。

Q. オンラインのみの受講で修了できますか？

A. 修了できます。オンライン授業とeアーカイブリングの視聴を組み合わせ
て60時間以上の受講が可能です。「履修の例: Bさんの場合」をご参考ください。

Q. オンライン講義は録画されたものを受講するのですか？

A. リアルタイムでの講義を、オンライン上で受講いただきます。

東京藝術大学
Diversity on the Arts Project

応募手続きに関するお問い合わせ

東京藝術大学 社会連携課 社会連携係
〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8
受付時間 | 10時～16時(土曜・日曜・祝日、年末年始を除く)
TEL | 050-5525-2031 MAIL | ext-soumu@ml.geidai.ac.jp

受講に関するお問い合わせ

Diversity on the Arts Project
通称: DOOR
MAIL | info-door@ml.geidai.ac.jp
WEBサイト | http://door.geidai.ac.jp/info/



藝大DOOR | Q

東京藝術大学
履修証明
プログラム
2025年度
9期生

Diversity
on the Arts Project

ダイバーシティ
オン ジ アーツ プロジェクト

通称: DOOR

応募締切
2025.2.14(金)

受講生
募集120名

ケアとアート

1年間一緒に学ぶ

社会人と藝大生が

東京藝大で



ごあいさつ

「Diversity on the Arts Project」(通称:DOOR)は、「ケア×アート」をテーマに、「多様な人々が共生できる社会」を支える人材を育成するプロジェクトです。

講師として、現代の社会に生きづらさを感じている当事者、社会との関わりを持ち、表現を行うアーティスト、現代の福祉をより広い視野で捉え直す多様な分野の専門家を迎えます。

ケアとアートが滲みあうフィールドをお互いの作用において拡張しながら、体系的かつ東京藝大らしいカリキュラムを展開していきます。



DOORディレクター 東京藝術大学長
日比野克彦



2023年度修了生

受講生の声

竹中葉菜さん
会社員
東京都在住

「ここが始まりだと思いました」

受講している期間「仕事/生活/学業が相互に影響しあっているな」と感じる瞬間が沢山ありました。仕事では、講義や実習で学んだ視点が着眼点となって、今までとは違う切り口で企画を考えることに繋がったり、暮らしの中では、気になる本やニュースの幅が広がりました。

1年間仕事と両立を頑張るぞ!というよりは自然と運動しながら楽しめたように思います。DOORを通して、やりたいことが少し明らかになりました。ここが始まりだと思いました。

中村幸雄さん
会社員
東京都・岐阜県在住

「学びのサイクルを生活の一部にすることにしました」

「文化芸術×福祉」で何ができるのかのヒントを探したくて、受講することを決めました。参加する上で仕事と生活と学業のどれも疎かにしたくないと考え、ざっくりとですが、年間の計画を立て、学びのサイクルを生活の一部にすることにしました。講義や演習は平日の夜や週末。リモートやeアーカイブラーニングでも時間数を取得できるので、時間を上手くやりくりすれば無理なく学べる環境だと思います。DOORでの繋がりが修了後も続くことが楽しみです。

山形優子さん
NPO職員
石川県在住

「学んだことを仕事に生かすことができていると思います」

授業ではいろいろな分野の方の講義を受けることができ、どの講義もとても面白く、印象に残っています。仕事や生活を考えて受講することを迷うかもしれませんが、全国から受講生が集まるDOORを通じていろいろな視点、角度からモノを見ることの大切さを教わることができ、様々な人との新しい繋がりができます。私はDOORで学んだことを仕事に生かすことができていると思います。そのDOORを開くのも、閉めるのも自分自身かなと思います。

授業概要

必修科目(50%以上の出席)、選択科目・DOOR特講・eアーカイブラーニングを組み合わせ年間60時間以上の受講とレポートの提出で履修証明書を取得可能。

対面授業



オンライン授業



必修科目

下記の2科目の履修が必須(取得時間数:22.5時間×2 合計45時間)

期間:4月～翌1月

ダイバーシティ実践論



生きづらさを抱える当事者や、当事者と関わりながら活動を行っている実践者・表現者との対話や、現代の福祉をより広い視点で捉え直す様々な領域の専門家を講師に迎えて、オムニバス形式の講義を行う。これからの社会で創造されるべき共生社会を考察し、実践につながる思考を編んでいくことを目指す。



曜日 月曜日
回数 15回
時間 18:20-19:50
場所 オンライン

ケア原論



福祉の歴史やケアの基礎的な考えを知り、わたしたちを取り巻く環境が抱える問題について理解を深める。また、ケア・アートの両領域における創造的な取り組みを参照することで、現代のケアとアートの接点について考える。アートを介し福祉をより多角的な視点で捉えてゆくことを目的とする。



曜日 月曜日
回数 15回
時間 18:20-19:50
場所 オンライン

選択科目

下記の6科目から1つを選択(取得時間数:22.5時間) ●定員あり ●抽選制 ●任意で履修

期間:5月～12月

プログラム実践演習



多様な人々がともに過ごす場をつくることを目指し、作品・ワークショップ等の制作や実践を行う。また、社会の中で見過ごされがちな事象に目を向けてきたアーティストの眼差しに触れ、学びを深める。



曜日 土曜日or日曜日
回数 7回+課外活動
場所 東京藝術大学+学外

ARTs × SDGsプラクティス



「SDGsとアート」をテーマに扱う授業。SDGsが掲げる持続可能な社会を実現するうえでの課題を見つけ出し、創造的な解決策をアートの可能性を交えながら思考していく。SDGsをより多角的に、より深く知るために、様々な活動をしている実践者を講師に招き、共に考えていく。



曜日 火曜日
回数 7回+レクチャー6回
場所 オンライン

ケア×フィールドワーク実践演習



上野公園周辺の地域のフィールドワークを行い、地域の課題等をリサーチし、ケアとアートの接点を探る。それを踏まえ、ケアや社会貢献の活動につながる企画・制作をグループで協働して立案し、アートを手立てとし、社会との架け橋を創る。



曜日 土曜日or日曜日
回数 6回+課外活動
場所 東京藝術大学+学外

ドキュメンタリー映像演習



映像制作・ドキュメンタリーの技法を基礎から学び、テーマに沿ってグループで映像制作を行う。制作プロセスを介し、映像のリレーや多様な人々との関わり方、振る舞い方をとらえることを目指す。



曜日 土曜日or日曜日
回数 9回+課外活動
場所 東京藝術大学+学外

ケア×ソーシャリー・エンゲイジド・アート実践論



地域社会や住民とともに制作や活動を実施するソーシャリー・エンゲイジド・アート(SEA)について、日本のアートプロジェクトの事例にも触れつつ、その歴史を紐解く。また、ケアと関りの深い事例を掘り下げながら、福祉施設や地域におけるアートを介したコミュニケーションについて探求する。
写真:金サジ 提供:みずのき美術館



曜日 土曜日 or 日曜日
回数 7回
場所 オンライン

人間形成学総論



人間の性質や能力を育て形成する「教育」について考える。
具体的には、現代社会における教育と学びを理解することから出発して、人間形成の原理について学び、さいごには「自ら学び続ける力」を各自が発見し、養っていくことを目指す。



曜日 金曜日
回数 8回
場所 オンライン

DOOR特講

取得時間数:3~5時間×授業数
●全員受講可 ●任意で履修

DOORでの学びを広げるための不定期に開催される授業。東京藝大の施設を利用した実技的な演習やDOORの学びから生まれたテーマをより深める講義などを行う。



事例
ワークショップ・ブレインストーミング、クロッキー、ワークショップメイキング他(年度ごとに変更あり)

DOOR eアーカイブラーニング

約70時間視聴可能 ●全員視聴可 ●任意で視聴
●最大45時間分を取得時間に加算可能

過去の講義映像の視聴が可能。ケアとアートに関する知識が詰まった講義アーカイブを見ることで知見を深めることができる。



講師
広井良典(京都大学こころの未来研究センター教授)/森合音(四国こどもととなの医療センターアートディレクター)/山本昌子(ACHAプロジェクト代表)他

【スケジュール】

4月	ガイダンス	必修科目	選択科目	特講	eアーカイブラーニング
5月		ダイバーシティ実践論 ケア原論	プログラム実践演習 ケア×フィールドワーク 映像演習 ドキュメンタリー ARTs x SDGsプラクティス ケア×ソーシャリー・エンゲイジド・アート実践論 人間形成学総論	DOOR特講	DOOR eアーカイブラーニング
6月		22.5h 22.5h	22.5h 22.5h 22.5h 22.5h 22.5h 22.5h		
7月					
8月					
9月					
10月					
11月					
12月					
1月					
2月					
3月	修了式				
60時間以上の受講で履修証明書を取得		2科目の履修が必須	任意で履修 6科目から1つを選択 各授業定員があるため抽選を行う	任意で履修	任意で視聴 最大45h

【履修の例】

対面授業を中心に学習したい



Aさん

ダイバーシティ実践論	22.5h
ケア原論	22.5h
プログラム実践演習	22.5h
DOOR 特講	10h
合計	77.5h

オンライン授業を中心に学習したい



Bさん

ダイバーシティ実践論	22.5h
ケア原論	22.5h
人間形成学総論	22.5h
DOOR eアーカイブラーニング	45h
合計	112.5h

修了後の活動イメージ

- DOORで得た知識や経験を活かしながら -



様々なアートプロジェクトを担うスタッフやアーティスト、サポーターとして活動を行う



社会福祉施設などの職員として働いたり、自身の職場や活動に活かす



アートを介して多様な人々が共生できる社会環境を創造する活動を展開する